

アンダーカレント 湖に沈んだ鉄路

文・写真、風戸涼（V2ソリューション/星雲社・16880円）

ISBN 978-4-7699-7339-1

鉄道ミステリの秀作。ミステリの面白さと鉄道愛が溶け合っている。

一九八一年、宇都宮近郊で釣具店の店主が殺される。警察の捜査が進むうちに一九五五年、国鉄足尾線で線路を歩いていた女性が蒸気機関車に轢かれた事件と関わっていることが分かってくる。

足尾線は桐生と足尾銅山を結ぶ。

現在のわたらせ渓谷鐵道。この鉄道

は草木ダムが出来た時に一部が沈み新しい線路になった。付近の村もダムの底になった。

水の底の村、廃線、そして七三年に閉山となった足尾銅山。失なわれた過去が事件によって浮かび上がってくる。著者は写真家で鉄道写真も掲載。参考資料に森繁久彌が足尾線の機関士になった映画「喜劇・各駅停車」があるのがうれしい。（川）



右で紹介した『アンダーカレント 湖に沈んだ鉄路』より。㊦は現在のわたらせ渓谷鐵道の足尾駅で、㊧は運行されている気動車。㊨は現在廃線になっている間藤駅～本山駅間のトンネル（いずれも風戸涼さん撮影）。

